

平成27年度  
ふるさとづくり大賞

受賞者の概要

平成28年1月8日

## 大賞

小原ECOプロジェクト【福井県勝山市】	2
---------------------	---

## 優秀賞

島 康子【青森県大間町】	3
--------------	---

## 奨励賞

特定非営利活動法人戸田塩の会【静岡県沼津市】	4
------------------------	---

## 団体表彰

一般社団法人ISHINOMAKI2.0【宮城県石巻市】	5
株式会社あきた森の宅配便【秋田県小坂町】	5
群馬県立利根実業高等学校食品文化部【群馬県沼田市】	6
西岬海辺の里づくり協議会【千葉県館山市】	6
株式会社地域新聞社【千葉県船橋市】	7
平瀬川流域まちづくり協議会【神奈川県川崎市】	7
特定非営利活動法人八代地域活性化協議会【富山県氷見市】	8
特定非営利活動法人能登ネットワーク【石川県能登町】	8
小滝区【長野県栄村】	9
一般社団法人kikito【滋賀県東近江市】	9
田根地区・地域づくり協議会【滋賀県長浜市】	10
かみかわ田舎暮らし推進協会【兵庫県神河町】	10
特定非営利活動法人西中国山地自然史研究会【広島県北広島町】	11
特定非営利活動法人新町川を守る会【徳島県徳島市】	11
松山市ことばのちから実行委員会【愛媛県松山市】	12
特定非営利活動法人砂浜美術館【高知県黒潮町】	12
企業組合ごめんシャモ研究会【高知県南国市】	13
唐津街道姪浜まちづくり協議会【福岡県福岡市】	13

## 地方自治体表彰

東京都江戸川区	14
新潟県十日町市	14
福井県鯖江市	15

## 個人表彰

佐藤 恒平【山形県朝日町】	16
近藤 光一【山梨県富士吉田市】	16
宮本 照代【和歌山県那智勝浦町】	17
本田 節【熊本県人吉市】	17

## 試験研究機関表彰

福島県ハイテクプラザ会津若松技術支援センター	18
石川県工業試験場	18

## 小原ECOプロジェクト

福井県勝山市

## 概 要

当団体は、小原集落を山村生活体験の拠点とし、都市住民との交流促進による地域活性化、集落文化や生活様式の継承、自然資源の保全・保護を目的に活動。交流人口1,200人/年を目標に、地元大学生など多様な組織・団体・教育機関と連携し、伝統的古民家の修復による景観保全や交流拠点の整備等を通して、交流コミュニティによる地域づくり、観光振興、環境保全を実践している。



## 評価された点

- ・わずかな人数の地域を舞台に外の力を活用して新たなコミュニティをつくりにぎわいにつながっている点が評価できる。今後の展開に注目してみたい。
- ・住民0（ゼロ）となっても、周辺住民、元村民、支援者が知恵を出して地域の未来を拓いていく考え方は、全国の先駆けとしての「集落維持と再生」、そして国土保全事業の雛型事例である。その視点の普遍性と環境活動は世界的にも注目を集め始めており、未来を拓く持続型産業としての活動のあり方は、特に新しい経済の仕組みとしての地域ブランド化を高く評価したい。
- ・限界集落、古民家という課題に焦点をあて地域づくりをしており他地域の同様の課題をもっている地域にとっては参考になる活動である。
- ・限界集落再生モデルとなる事例。急激な変化を創りだすのではなく、地道な取組を10年掛けて実施し、実っている。世界30カ国からのボランティアの受け入れなど、小さな村がグローバルに展開している。
- ・住民がわずかの集落における交流促進のプロジェクト。古民家再生や登山旅行者の利便性の向上、希少種ミチノクフクジュソウの保全活動、エコツアーなどの事業を次々と展開し、年間の入り込み客数1350人、宿泊者数743人などの成果をあげている。中山間地域における地域文化の継承や景観保全などに参考になる、勇気をもらえる事例と考える。
- ・人口少数の集落を大学と連携し、古民家を再生させ、交流人口増加のための拠点とし、農林業体験、山菜取り、豪雪体験ツアー、沢登りなど1年を通じた活動が行われている。交流人口が新たなコミュニティとして、賑わいを創出している点は非常に評価できる。
- ・バランスよく様々な世代を巻き込んでいる。シンプルな取り組みですが、ご縁できることで広がり期待できる。
- ・限界集落を舞台に地域コミュニティを創出し、年間1,000人を超える交流を実現したのは驚きに値する。地域資源を存分に活用したプロジェクトは一つ一つがどれも魅力的で「story」性を感じさせる。世界30カ国からの国際ワークボランティアの受け入れなど世界にも開かれた取組みを進めており、今後の新たな展開にも期待が持てる。



## 概要

平成12年、大間町を舞台にしたNHKドラマの放送に合わせ、地元を盛り上げ、地元の魅力を発信するため、まちおこしゲリラ集団・あおぞら組を結成。フェリー客を旗ふりで迎える旗ふりウェルカム活動や5月5日に巨大なマグロのぼりを泳がせるなど、約15年間にわたって地元・大間のまちづくり活動に取り組む。平成26年秋に取得した国内旅行取扱業務管理者の資格を活かし、地域限定の旅行業にもチャレンジ。県内各地区だけでなく、道南地域のまちづくりの第一人者たちと連携して「津軽海峡マグロ女子会」を結成し、海を超えたおもてなしツアーなどを企画立案している。



## 評価された点

- ・ 地域の特産品「マグロ」を先進性、独自性の取り組みで地域活性化につないでいる実績は高く評価できる。
- ・ 彼女の認知度は既に高く、今更ながらの感もあるが、15年間正にパワフルに活動し続ける姿勢は、全国の地域おこしに取り組む者の励みとなる。
- ・ 15年にわたり、大間のマグロを情報発信しつづけたことにより、地域がマグロの町として息づき、観光客増加だけでなく、地域ブランドにも寄与した。
- ・ 地域の特徴を生かしたユニークな取り組みであり、その地ならではの活動といえる。
- ・ 優れたリーダーシップを発揮し、大間町のみならず、青森県全体地域づくりを牽引している。助成金に頼らない、自立した地域活動の模範事例。
- ・ 15年以上の活動実績があり、その内容は独自性が高く、先進的である。被推薦者が企画・販売する個性的なまちづくり商品は全国から人気を集めており、まちづくりの活動資金を継続的に獲得している点でも高く評価できる。
- ・ 発想とパワーに一票。



概要

漁村に住む女性たちにより構成されたNPO法人が地元の歴史ある「伝統の塩の製法」を復活させ、塩でまちおこしをしようと地元有志で立ち上がった。「戸田塩」は、沼津ブランドとして有名になった。現在は、地元の高齢者を雇用し、塩の生産及び販売のみでなく、塩づくり体験学習、環境美化活動、高齢者の憩いの場の運営等、幅広い分野において活躍している。



評価された点

- ・地域の女性の活躍で地域資源の活用して付加価値を創出していることが評価できる。企画力と経営力に優れていることが素晴らしい。
- ・伝統的な塩の製造方法を復活するだけでなく、女性の収入源となっている経済事業となっていることは評価に値する。
- ・地元の歴史的産物に着目し、高齢者・地元女性の力の活用であらたな商品を生み出すにいたっている。
- ・漁村に住む女性たちにより構成されたNPO法人が地元の歴史ある「伝統の塩の製法」を復活させ、自主財源による安定的な経営を行っており、雇用を促進している点は、女性の社会進出の面からも非常に評価できる。
- ・素晴らしいと思う。塩の文化を紹介するとき、昔の桶を使ったり国の無形文化財になったりしている他のところもあわせて紹介してほしい。
- ・漁業、地域の衰退に危機感を持った女性たちが立ちあがり、日本一の塩づくりによる地域おこしを実現させた。営利目的の企業とは一味違い、様々な地域貢献にも力を入れ、女性たちが”誇りをもって”働ける場を生み出している。行政の補助金を受けず、自主財源による経営を続けており、その経営手腕も高く評価される。





## 一般社団法人ISHINOMAKI2.0

宮城県石巻市

### 概要

東日本大震災を経験した石巻というまちを、震災前に戻すのではなく、新しいまちへとバージョンアップさせるために団体を設立。人口流出、コミュニティの希薄化など、震災前から抱えていた問題を解決するため、地域内外の人を結び、既成概念に捉われないまちづくり活動を展開。「石巻STAND UP WEEK」、「2.0不動産」、「いしのまき学校」などの各種取組は、閉鎖的であった地域を開き、被災地石巻の新たな展開を目指している。



### 評価された点

- ・震災復興の取り組みとして勢いがあることが評価される。人と人をつなぐことや今までと違った新しいことへの挑戦はおもしろい。雇用につながってきていることが何よりだと思う。
- ・地域の課題（震災からの復興）という点において新たな視点から精力的な活動を行っている。
- ・20代、30代の若者が地域づくりを牽引する好事例で、被災地以外の地域でも取り組める事例。
- ・まちを震災前の姿ではなく、新しいまちへとバージョンアップさせるために、地域内外の人を繋ぐ、独創的な取り組みは、震災復興の新たな形として評価できる。また、高校生を対象とした教育プログラムは将来の定住に大きく期待できる。



## 株式会社あきた森の宅配便

秋田県小坂町

### 概要

少子高齢化等が全国一進む秋田県であるが、はっきりとした四季の変化により自然の恵みがとても豊かである。地元の人々はその価値に気づいていない人も多く、口を揃えて「ここには何もない」と言う。しかし「ここにしかない価値」もきっとあると思い、地元の高齢者の人たちと一緒に自分たちの得意分野である「山菜採り」を活かして外に向かって生きがいを再び見つけられると考えた取組である。



### 評価された点

- ・地域の目利きが主体となる活動は、直接その価値を知る人とのマッチングによって、より価値の高まるものとなる。地域に眠る資源を地域の名人によって光を当て、「地域の宝」を直接届ける「里山便」は成長幅の高い地域づくり活動と思われる。
- ・WEBとリアル（山の名人）を上手く組み合わせたユニークな事例。運営を売上で賄う自立性も高い評価。
- ・地元の素材と人財を活かした、winwinのプロジェクト。
- ・新鮮な天然山菜を食べたいと願う消費者と、山菜とりの名人の生きがいをうまくマッチングさせたユニークなプロジェクトである。山間に暮らす高齢者にとってはごく日常の仕事、誇りの持てる、輝きある仕事に変えるこの取組みは、町おこし、村おこしの材料がないと嘆く他の中山間地域にとっても一つのモデルとなりそうだ。



## 概要

市がB級グルメ研究事業を立ち上げ、特産である枝豆の活用の検討を当学校に依頼。生徒が主体となり、枝豆入りのメンチカツ「えだまメンチ」を開発。えだまメンチ普及のため、生徒達は市内の飲食店に営業を行い、取扱店舗を市内17店舗まで増やしたほか、市や企業と連携し、学校給食提供を実現。加えて県内外のイベントにおいても、生徒達が実演販売し、広くPRに努めている。



## 評価された点

- ・ 学校教育と地域の特産品開発の成功事例として評価できる。こういった活動は今後の地域づくりに取り組む上で大変重要なことであり全国各地に広がってもらいたいと思う。
- ・ 行政と高校の取組が、市内の事業者や小中学生へと連携が広がり、市を代表する事例への進化を評価。
- ・ 生徒が主体となり、地元の特産である枝豆を活用した新たな商品を開発し、地元のお店を動かしたり、市や企業と連携して市内小中学校の学校給食提供をし、地産地消に寄与している点は大いに評価できる。また、高校の魅力化による地域活性化は今後のふるさとづくりにおいて重要な点である。
- ・ 高校生の取り組みを、まち全体で応援し若者のチャレンジを支えている姿が背景に見える。高校生世代を地域で多様な活動を展開することは非常に重要であり、表彰に値する。



## 西岬海辺の里づくり協議会

## 千葉県館山市

## 概要

集落に1軒残る茅葺き民家を、大学の建築まちづくり研究室と地元コミュニティが一緒になって、5年かけて葺き替えた。毎年、10人程度の学生が泊まり込んで、茅葺き民家ゴンジロウの屋根を葺き替えてきた。留学生も参加している。2013年に廃屋の炊き場をコミュニティキッチンにし、2015年に主屋の台所を土間に戻した。ゆっくり変わり続けるゴンジロウが活動の輪を広げている。



## 評価された点

- ・ 地元大学が継続して地域と取り組んだ事例であり、急がずゆっくり成果を出してきたことは今後のまちづくりに、大きな参考となる。
- ・ 集落と大学の連携が年々深まり、研究室OBの1ターンや留学生との交流に進化している。キーワードの「ゆっくり」は全国各地の風土と親和性が高く、参考になると考えられる。
- ・ 「古民家をゆっくり改修し続け」ながらの地域づくりに大いに共感。
- ・ この動きをもっと全国的に広げて、茅場や葦場やエコの知恵につなげてほしい。大切な観光資源。





## 概要

「ちいき新聞」は、1エリア3万世帯前後という小さなコミュニティに向けて、手配り式フリーペーパーという形式で読者に地域情報を発信。地域住民である消費者が良い情報に出会い、飲食・物販・サービスなどを営む地域企業が成長することで、好循環を生み出し、地域を活性化させることが目的。週1回発行。単独のポスティングにこだわり、到達率は平均で90%を超える。

## 評価された点

- ・継続した地道な活動であり、この事業が株式会社の事業として成り立っていることが大きな成果であり、地域あつての見本的事例として評価すべきである。
- ・地道な取り組みで、出ては消える「フリーペーパー」とは一線を画している。地域での情報流通は地域の誇りを持つ上でも重要であり、地道な取り組みに敬意を表したい。
- ・「一度は行きたい、経験したい」地元のいいところランキングをはじめ、地域住民に自分たちの住む地域の魅力を再発見させる情報満載で、まさにその名のとおり、“地域の地域による地域のための”情報ツールとなっている。この30年で2万部から200万部にまで発行部数を伸ばしており、その継続性も高く評価される。



## 平瀬川流域まちづくり協議会

## 神奈川県川崎市

## 概要

地域住民が立ち上がり、自治会等関係諸団体に呼び掛け、川の自然環境を取り戻し川を生かしたまちづくりをめざし、川の清掃や、鮎の放流、桜の植樹、水質・生態調査や観察会、地域の環境・歴史マップづくりなどに取り組んでいる。こうした活動に地域の小中学生も参加し、環境やまちづくりへの理解を深め、次世代を担う子ども達を育てる場ともなっている。

## 評価された点

- ・都市部での地域活動として、さまざまなプログラムを用意して多くの住民が参加できるように工夫した。また小中学生の参加も継続しており、今後の活動に期待できる。
- ・流域連携は防災意識の醸成に有効。全国で取り組める好事例。
- ・地域住民が主体的に勉強会を重ねながら行っている。平瀬川の自然環境を守る様々な活動は、年々参加者も増加し、持続可能なまちづくりに大きく貢献している。また、地域の子どもたちも参加することで、次世代を担う人材育成を行っている点も高く評価。





概要

高齢化と人口減少による民間事業者の路線バスの廃止、市営バスの見直しを機に地域住民の交通手段確保と環境を守り、元気で魅力ある地域づくりに寄与することを目的に、NPO法人八代地域活性化協議会を設立し、無線システムを活用した環境パトロールとコミュニティバスの運行を行っている。



評価された点

- ・ 過疎化と高齢化が進む地域の消滅を避けるためにも住民の足を確保することが必須である。無線システムを活用したコミュニティバスの運行は和製ウーバーであり、高齢者の見守りや社会参加をはじめ、これからの地域づくりの一つのあり方として注目される。
- ・ 公共交通を利用し、外出の機会を増やしていくことは、必須でありながら、なかなか安定した経営と結びつかず、地域づくりとしての悩ましき課題が大きい中で、利用度を高めるための様々な工夫を実践されている。特に人が寄り合うための知恵等を合わせて、ハードとソフトの手法を評価。
- ・ コミュニティバスが単なる交通手段ではなく、「走る公民館」として地域住民にとっての交流の場となり、家に閉じこもりがちなお年寄りの外出機会増加につながっている点が注目される。無線システムを使った外出補助、運転手を地域内からの雇用など地域住民が一体となってバス運営に取り組み、継続させている点も高く評価。



特定非営利活動法人能登ネットワーク

概要

能登一円の有志が集まり、前身の団体を発足させ、能登の可能性を検討する組織として設立。能登空港が開港する年に現法人として法人化した。能登半島と首都圏をつなぐ取組として、東京・銀座での「居酒屋のとだらぼち」の開業をはじめ、都内からの地酒列車運行等、様々な企画を実施。近年は、能登の食の魅力語り部と共に東京に出前する「東京DEMAE能登半島」などを実施。

評価された点

- ・ 能登空港の開設や新幹線の開通を積極的に捉えながらも、多くの地域消滅市町を抱える能登地区にあって、能登の可能性を広域的に検討する組織を設立し活動していることを評価。
- ・ 北陸新幹線等の話題が集まる一方で、「人が出て行く」勢いも加速している能登半島。豊かな資源を再認識し、理解者を広げて確実に安定的な地域の仕事づくりに結びつけようとしている点を評価。
- ・ 地域と都会（東京）を繋ぎ、交流を促進する好事例。
- ・ 首都圏に能登の魅力を発信するために、居酒屋を開店し能登地酒列車を運行している。単に情報発信を行うだけでなく、能登空港の利用促進、能登への訪問を増やすことを目指しているところがユニーク。
- ・ 域内での活動にとどまらず、東京への出店など意欲的で本気さを感じる。



## 概要

長野県北部地震の被害が大きく、世帯数も減少。「このままでは集落が消滅してしまう。みんながふるさとで人生最後まで暮らせるようにしたい」この思いから「小滝復興プロジェクトチーム」を結成、復旧・復興活動を展開。集落独自の震災復興計画を策定し、「300年後に集落を引き継ぐ」という夢とロマンを掲げ復興に向かって歩み始め、揺るがない集落づくりをするため集落ぐるみの法人も設立。



## 評価された点

- ・過疎高齢化・震災からの復興という地域の抱える課題に取り組んでいる事例である。
- ・災害はどのまちにも起こりうる。災害を契機に積極的な地域づくりを展開している集落は是非応援したい。集落全戸での合同会社設立など面白い。
- ・災い転じて福となつてほしい。素朴な取り組みだが、命をかけて助け合って、また新たな道を切り開く努力は美しい。
- ・行政に頼ることなく、自ら地域の復興計画を策定し、地域の特性を生かした事業に取り組んでいる。小学生から高齢者まで全員の思いを拾い上げ、村民一体となって前へ一歩を進めようとしている点、300年後の集落の将来ビジョンというスケールの大きさが素晴らしい。集落ぐるみの法人も設立し、責任を持って事業を継続しようとしている点も評価。



## 一般社団法人kikito

## 滋賀県東近江市

## 概要

身近な森林の課題を自分たちの力で解決するために設立。間伐材を森林所有者から一般的な取引価格よりも高値で買い取りし、地元企業と連携協力して付加価値の高い紙・木製品等の企画・販売など、森を介して「経済（お金）」と「人」と「心」をつなぎ、地域の経済循環の創出につながる取組みを展開。また、他にも、企業・消費者が森づくりに参加できるような仕組みづくりにも取り組んでいる。



## 評価された点

- ・近年の林業の低迷は深刻さを増すばかり。そんな中であって新たな展開を行い森、お金、人、森林の経済循環が生まれていることは評価できる。
- ・地域の大きな課題に着目し、積極的な解決を地元からの発信で経済活動にまでいたる仕組みを作っている点は秀逸であり、同様課題を抱える地域にとっての参考となる。
- ・他の林産地域でも取り入れ可能な事例。
- ・行政の補助金に依存することなく、民間だけで間伐材の買い取りを行い、人と環境と経済のバランスをうまくとりながら、経済循環を持続可能に行っている点は他地域のモデルとなる取組みである。
- ・地域の間伐材買取の仕組みを完成させ、かつセンスあふれる商品化を展開する取組みは秀逸。持続可能性を追求する地域の取組みとして、注目に値する。





## 概要

平成18年2月の市町合併を機に、「地域のことは地域で解決する」という機運が高まり、住民主体の地域づくり協議会を平成19年3月市内で最も早く設立した。同年、慶応大学やMITとのワークショップをきっかけに、毎年、過疎化や少子高齢化などの地域課題の解決を目指した大学との取組がはじまった。近年は企業も加わり、ますます活動が多岐にわたるとともに、年々活発化してきている。



## 評価された点

- ・国内外の大学と一般企業との連携の好事例。
- ・ホームステイの受け入れにとどまらず、学生の発想を活用し、ともにイベントを計画するなどの取組みは独創的である。また、地域として受け入れていることで、地域全体に愛着と誇りが醸成されている。
- ・合併によってアイデンティティーを失わず、協力し合う姿勢が素敵。また、外部との助け合いのなかで新たな発展をすることはもっと期待できる。
- ・国内外の大学との協働により、地域の課題解決に向けた新たなプロジェクトを次々に生み出しているところが面白い。大学生の斬新なアイデアを企業の協力も得ながら具現化しており、今後、どんな新たなコラボレーションが生まれるのか、さらなる展開に期待したい。



## かみかわ田舎暮らし推進協会

## 兵庫県神河町

## 概要

高齢化・過疎化により増加し続ける空き家を「地域の宝」として捉え、田舎暮らしをしたい都市住民のニーズに応えるべく移住施策を推進。神河町が進める空き家バンク事業の側方支援として、田舎暮らし体験施設や地域交流施設としてリノベーションするなど空き家の利活用を推進しており、地域交流施設は町の活性化に繋がっている。

## 評価された点

- ・空き家を課題ではなく資源ととらえ、リノベーション事業を進め、交流人口と定住人口に寄与してきた。
- ・空き家対策の一つの範となる取り組み。空き家を資源と再認識し、空き家活用セミナーやチャレンジショップ、空き家再生講習会などのソフト事業を駆使し、都市住民との交流を果たし、実績をあげている。このような、地域の人々を広く巻き込んだアプローチはこれからの対策の参考になる。
- ・専門学校とのタイアップ等、地域外部との協力により新しい可能性が湧き出している。





概要

当団体は、貴重な動植物が生息する西中国山地を中心に、その適正な保全に資するための研究活動を長年にわたって実施しており、保全事業のひとつである「芸北せどやま再生事業」は、山の持主自身に山の手入れをしてもらい、切った木を「せどやま市場」が買い上げるというもので、「せどやま券」という地域通貨で対価を支払い、山で稼いだお金が地域内で循環し地域経済を活性化させる仕組みとなっている。なお、「せどやま」とは家の裏山（＝里山）のことである。



評価された点

- ・森林を活用する方法として、地元での買取と地域通貨に替えながら森林を経済として循環させている仕組みには評価に値する。
- ・地域で放置されていた木を活用し、経済循環を生み出す仕組みにしあげている。
- ・山林里山の保全を地域通貨に結び付け、地域経済を活性化させている好事例。他地域でも取り組める可能性がある。
- ・放置されていた木材を活用し、地域通貨の流通を促進することで、地産地消、里山保全、地域活性化を目指す活動である。
- ・山を持ち主に手入れしてもらい、重さに応じて買い取り、地域通貨に変え、地域内循環させている点は、ユニークな取り組みであり、他地域のモデルとなる。
- ・里山の保全を地域経済循環と結びつけ、地域通貨などを通じて可視化させている取り組みは秀逸。
- ・山の木を地域通貨に換えることで、里山を宝の山に変えるとともに、地域の人たちにも里山の価値を伝えることができる。



特定非営利活動法人新町川を守る会

概要

徳島市内中心部のシンボルである川が、家庭排水等で汚染された状況を憂い、有志10人で会を発足し、月2回の川の清掃活動から始まった。清掃活動、川辺を中心としたイベント開催のほか、河川航路を観光資源として復活させたり、行政と連携し、護岸の維持補修等を実施したり、さらには他のNPO法人の取組支援等、環境保全の枠を超え、観光振興、まちづくり等にも多大に貢献している。



評価された点

- ・汚れた川を市民の手できれいに美しくしようと行政に頼らず住民主導で活動している点が高く評価できる。多くの人に共感を与えたことはすばらしい実績である。
- ・長期又非常に多岐にわたる活動内容は単なる環境保全事業の枠を超えており、組織の拡大手法も参考になる。
- ・身近な河川を住民が自らの活動によって観光資源となるまでに至った。
- ・住民主導で多くの人々を巻き込み、河川の美化、航路の復活などの成果につながっている。会員数も着実に増加しており、地域イノベーションのさまざまな可能性を感じる取り組み。
- ・川の美化を目指して始まった活動だが、美化にとどまらず、観光資源としての河川の価値を高める先進的な取り組みとして高く評価される。



## 概 要

市では、正岡子規や夏目漱石をはじめとする幾多の松山ゆかりの先人たちが残してくれた文化的土壌を活用することで、「ことばのちから」をキーワードとしたこれまでにない新しいまちづくりに取り組んでいる。同委員会では、全国から応募されたことば作品を市内に掲示する「街はことばのミュージアム」などの様々な事業を展開している。

## 評価された点

- ・そもそも地域の情報発信は「ことば」によるのであり、「ことばのちから」が強ければ強い程発信力が高まり、認知度の向上に結びつく。これ迄の地域ブランドづくりは、形ある資源をどうということばで伝えるかが課題であったが、「ことば」そのものに目を付けた点は画期的であり、松山というまちの歴史的な背景からも「言霊」のまちづくりは相応しいと思う。
- ・世界に広がる俳句文化に対して、近年は日本語の魅力を日本人が忘れがちである。郷土の先人たちが残した地域の宝として受け継がれて来ている文学的遺伝子を、未来に繋げて頂きたい。
- ・「ことばのちから」をキーワードに町づくりを進めているのは、文化のまち松山らしさが表れており、ユニーク。
- ・「ことば」を地域資源として捉え、着実に活動を展開しているのは秀逸。また、それらがブランディングにつながっており、評価に値する。



## 特定非営利活動法人砂浜美術館

## 高知県黒潮町

## 概 要

NPO法人砂浜美術館は、まちづくり、保健、福祉、教育、文化、環境といった広範囲にわたるあらゆる地域の活性化を図る活動を、住民、行政、企業、社会貢献活動を行う団体や個人、関係機関と連携を図りながら進めることによって、人材の育成と豊かなまちづくりを行う。

## 評価された点

- ・有志の集まりから地域ならではの資源（砂浜）をベースに活動を展開している。
- ・当たり前のようにある町の自然を「宝物」として位置づけ、活用、進化させた先駆的な事例。
- ・砂浜を美術館とするTシャツアート展は独創的であり、まちのイメージブランドの構築につながっている点は、大いに参考になる事例である。
- ・「私たちのまちには美術館がありません。美しい砂丘が美術館です」というコンセプトが秀逸。そう言い切ることで、ハード中心からソフト中心に転換させ様々な取り組みを展開させている。
- ・まず何よりも、美しい砂浜を「美術館」に見立てるという発想が斬新で面白い。Tシャツアート展など、プロジェクトもユニークでとても魅力的。働く場を創出している点も評価。
- ・地域づくりの老舗。地域のさまざまな主体と協力しながら、砂浜を資源と見立てて、地域文化を発信し続けている。





## 概要

南国市を元気にしたいとの思いで集まった市民有志が、南国市才谷地区が坂本龍馬先達の地であること、龍馬が好物のシャモ鍋を用意させていたときに刺客に襲われ食べ損ねてしまったことなどを知り、「坂本龍馬が食べ損ねたシャモ鍋」で市を活性化しようと、シャモの飼育からスタート。現在ではシャモ肉の出荷の他、商品開発を行う等、新しい名物として「シャモ」料理の普及及び地域活性化に取り組んでいる。

## 評価された点

- ・通常この手の活動は補助金での開発が主だが、有志の思いが地域のブランド構築につながっている。
- ・有志による自主活動として開始している。シャモ料理を資源に地域での雇用を作るとともに、南国市のブランディングに寄与している。
- ・何もなかったところから坂本龍馬が食べ損ねたシャモ鍋という歴史からシャモでの地域活性化を目指し、飼育からはじめ、現在の状況まで発展させた点は評価できる。
- ・シャモに着目し、地域のいろいろな人々を巻き込みながら展開し、現在では地域の複数の飲食店でのメニュー化に成功。今では名産の一つに数えられるようになった。まさに資源化の好例であり、地域づくりの可能性を実感できる取り組み。



# 唐津街道姪浜まちづくり協議会

# 福岡県福岡市

## 概要

姪浜地域では、福岡県西方沖地震の影響や都市化の進展等による町家の減少、マンションの増加等により、地域固有の歴史的景観が次第に失われつつある中で、地域の歴史的資産の重要性に気づいた市民有志が中心となって、地域住民を巻き込みながら『姪浜の宝を福岡市民の宝に!』を目標に、姪浜ならではの多彩な魅力資源を活かした地域協働のまちづくりを精力的に推進している。

## 評価された点

- ・行政や団体に依存せずに自発的な市民活動を進めている点が高く評価できる。個々の力を生かしている点もすばらしい。
- ・独自性はあまり感じられないが、多岐にわたり堅実に活動を展開している点が評価できる。
- ・景観保全是極めて厳しい社会状況下において、広い世代との連携活動は地域にしっかり根を下ろしている。活かしつつ、残しながら更に蘇らせる手法の工夫等期待したい。
- ・地域にあるものを資源として現代に活かして精力的に活動が行われている。
- ・いわゆる「よその」「若者」「ばかもの」の力を借りて、多彩なイベントを次々に打ち出し、それがメディア等で報じられたり、賞を受けたりすることで、さらに動きが加速、もっと「楽しいことをやろう」、「まちを盛り上げよう」という意欲向上につながり、まちおこしの”熱”がどんどんと高まっている感じがする。





## 東京都江戸川区

### 概要

旧図書館跡地を利用し、子ども達の探究活動の拠点基地として開設。アカデミー（学びの機会）とライブラリー（図書館）の二つの機能を合わせ持った新しいタイプの施設。展示型の科学館や博物館と異なり、区の自然、産業、人材など、あらゆる地域資源を活用して、室内に留まらず区内全域をフィールドとし、体験しながら継続的に学べる機会を提供。共育・協働の理念のもと、区民講師、ボランティア、専門家、専門機関と共に、学校ではできにくい幅広い分野のプログラムを開発し運営している。（右写真上：「地球46億年の旅（ミジンコの観察）」、右写真下：「江戸川の水質調査」）

### 評価された点

- ・過去に受賞歴もあり、認知度もあるが着実に利用者も増え、プログラム内容も充実しており、関係機関との連携も良い。
- ・一極集中が進む東京での子育ては、都心として難しい環境にある。加えて地元意識がない東京にあって、江戸川区ならではの地域学や地域資源を知ること、東京のふるさとづくりとなる事業で評価に値する。
- ・多彩なプログラムが用意され、運営者の心意気が感じられる。全国への波及効果も期待できる。
- ・多様な人、組織が連携・協働して、ユニークなプログラムを展開している点。次世代育成プログラムとして、モデルになりそう。



## 新潟県十日町市

### 概要

全国に先駆け、「地域おこし協力隊」を導入。行政として命題を与える「テーマ型」での配置をあえて行わず、外部目線で地区を見つめ、地区住民に寄り添い、地区内でさまざまな活動を支援する「地域密着型」協力隊を配置することで、協力隊の活動が地区を刺激し、住民は多くの気付きを得る。その結果、協力隊と地区との信頼関係が築き上げられ、任期終了後の定住につながっている。

### 評価された点

- ・地域おこし協力隊を地域密着型として活動を支援する取り組みは、住民にとって新たな気付きにつながるようになる。全国に先駆けしたことや地域にあった手法が評価できる。
- ・地域おこし協力隊を受け入れている地域は多いが高い定着率を生み出す取り組みとなっており、全国の他地域でもモデルとなる活動である。
- ・目先の一時的な地域活性化に捕らわれず、長期的な地域コミュニティの育成を見据えて、効果的に地域おこし協力隊制度を活用したまちづくりを行っている。地域おこし協力隊による外の力と、地元住民の受け入れる機運がうまく相乗効果をもたらすようコーディネートされていることが、定住促進につながっている。
- ・外部の力をどう活かすか、そしてその視点を地域に内在化していくかという点で取り組みは評価に価する。



### 概 要

市では「鯖江市民主役条例」を制定し、市民とともに市民協働・市民主役のまちづくりを推進。これまでどうしても参加の少なかった高校生、特に女子を対象にまちづくりチームを結成。自らが企画した地域活動を実践することを通じ、若者・女性が進んで行政参加を図っていく新たなモデル都市となることを目指し、「鯖江市役所JK課」事業に取り組み、全国的に大きな注目を浴びた。

### 評価された点

- ・この手の取り組みは、一見不謹慎なため、行政としては避けて通りたいところだが、敢えて取り組んだ点は立派。JK→OCというストーリーも話題性を備えている。
- ・地域づくりには、いかに多様な視点を取り入れるか、住民参画をいかに実現するかが大切だと考える。鯖江市の取り組みは、若者やよそ者の参加を促し、地域への関心を高めていくうえで面白いものだと考える。
- ・高校生を地域と結びつける取り組みとして秀逸。若い世代が地域との関わりを持つことは、Uターンとも深く関わっており、ローカルプライドの涵養の面から見ても重要である。
- ・あまりにも有名になった取り組みだが、継続・発展しているところを評価したい。
- ・若い人の意識改革が出来るとともに、生活環境が充実。アプリなど若い発想が生かされている。





## 佐藤 恒平

山形県朝日町

## 概要

大学院在籍中の2008年より着ぐるみによる地域情報の発信にいち早く目を付け従来のご当地キャラクターとは全く違う運用方法によって、地域に住む全年齢を対象とした、地域の誇り醸成のスキームを提唱。その実証実験を皮切りに、住民の地域おこしアイデアを聞き入れ代行して実践する「逆コンサル型」の手法で、数々の企画をカタチにしている。

## 評価された点

- ・まだまだ年齢は若い新たな発想と住民のアイデアや声をしっかり聞いてやっていることが評価できる。それが現実になって動いてきているところがすばらしい。
- ・「逆コンサル型」という独自の手法で継続的な成果をあげている事、毎年5～10の新企画が生み出されているのは素晴らしい成功事例の再現を目指す視点が良い。
- ・オリジナルの地域活性化手法を実践し、町民アイデアを引き出す仕掛けを構築した。被推薦者が手がける独自性の高い取り組みは、各種メディアにも取り上げられ、高いPR効果を生んでいる。これにより、町民が様々な地域おこし活動を実感できるようになっており、大きな効果をあげている。
- ・地域づくりの”王道”ではない方法で地域づくりを進めている。逆転の発想に一票。



## 近藤 光一

山梨県富士吉田市

## 概要

富士山を中心とした環境保全に対する情熱から、富士山エコツアーガイドとして環境・観光教育的な視点を重視し、参加者に歴史や自然などを丁寧に解説する中で、少人数で安全に配慮した案内を実施。また、富士山周辺地域の方々を中心に自然環境のすばらしさを知ってもらい、地域住民とともに保全活動を行いながら地域のリーダーとして地域振興に努めている。

## 評価された点

- ・誰もが身近に多様な楽しみ方を通じて山と親しめる時代となったものの、各地で軽装備の山登り、不十分な知識、基本的な訓練等问题となっている。今後益々、富士山周辺のツアーガイドとして、幅広い「富士山」の楽しみ方を国内外に広げていくことは、重要な活動と思われる。
- ・富士山の世界遺産登録運動の前から、環境保全の重要性を説き、登山ガイドとして多くの登山者の理解得てきた。また、地域の人々や登山者への環境教育にも尽力している。富士山の案内に留まらず、富士山を中心としたエコツーリズムという新しい観光分野も開拓し、地域振興に繋げているのも高く評価できる。
- ・「富士山”命”」に一票。
- ・500回も富士山を登っていることだけでもすごいですが、日本は山国。観光客の山登りが増えると安全性などが大事になってくる。Mt. FUJIの取り組みが全国のためにもなってほしい。





## 概 要

平成11年開催の「南紀熊野体験博」に際し、平安衣装をまとして熊野詣でを体験する場として、生家を貸し出して以来、大門坂茶屋の名物女将として、前職（小学校教員）の経験を活かした穏和な語り口と、自家栽培による茶のおもてなしで観光客をもてなしている。リピーター客も増え、大門坂茶屋人前結婚式の立会人として、今までに23組の結婚式を見届けてきた。マスコミにも度々取り上げられるなど、熊野地域のイメージアップと観光振興に多大な貢献がある。



## 評価された点

- ・長年に渡る活動によって、新たな観光ルートが開発され、大門坂から歩く観光客が増加して地域活性化に成果を上げている。
- ・地域の観光資源を活かし、地元にある歴史的な熊野詣を彷彿とさせるアイデアの取り組みはユニークであり創意工夫が感じられる。
- ・長年、地域に貢献されてきた。



## 概 要

30代の頃のガン闘病をきっかけに食・農・命について深く考えるようになり、女性、高齢者、地域全体が元気になることを目指し、農村レストラン「ひまわり亭」をオープン。また、「ひまわり亭」を起点として「もったいない」「おかげさま」をキーワードに、農村で生きること・働くことの意味を、地元の食材や食文化を通じて人々に発信している。地域のみならず、熊本県内の地域振興に大きく寄与している。

## 評価された点

- ・ひまわり亭が地域に与えた農村で生きること働くことの意味は大きい。経営も安定しており補助金に頼らずに努力しているところもすばらしいと思う。
- ・被推薦者は食・農・命について深く思考するとともに、女性、高齢者、地域全体を巻き込んで、郷土料理のツーリズムを通じた地域づくりを展開しており、評価は高い。また、このような地域活動を広域に普及展開している活動も注目される。
- ・農村レストランの「ひまわり亭」の経営に私財を投じながら、6次産業化の出口を作ってきた先駆者である。
- ・食を見直すと全てが変わると思う。これからの日本が一番貢献できることであろう。その好事例。
- ・農村レストラン「ひまわり亭」は農村に生きる女性たちに自信と誇りをもたらし、地域全体の活力アップにつながっている。



## 福島県ハイテクプラザ会津若松技術支援センター

### 概要

平成3年設立の「清酒アカデミー」や、平成7年設立の「高品質清酒研究会」において講師や実習等の役割を担い杜氏育成を行った他、「うつくしま夢酵母」や「うつくしま煌酵母」を開発、製造場に頒布し酒質向上を図った。また、全国新酒鑑評会で金賞受賞数が3年連続日本一に輝くなど、国内外の各種コンクールで好成績を収めており、福島県産清酒のイメージアップ、原子力災害の風評被害払拭に大きく貢献し、福島県民に大きな希望を与えた。（右写真下：「支援センターの支援により東日本大震災の津波被害から復活した『磐城寿』」）



### 評価された点

- ・大きな被害を受けた中で、好成績を収めてイメージアップにつながり、風評被害の払拭に大きく貢献したことは高く評価。
- ・未来産業として食分野全般に渡り期待の大きい発酵分野。特に「おいしい酒づくり」の本拠地であった福島の再生、そして郷土のブランドイメージアップと、新たな歴史づくりに大きな貢献を果たし、地域づくりを重ねられている。
- ・酵母の開発というものは他県でもみられるが、オリジナル酵母にこだわり、かつ、地域の地元杜氏育成を目指して広く個々が持つ知見、技術を共有し、地域酒質の向上を目指し地域特性と新しい技術向上の仕組み（清酒アカデミー）を立ち上げ継続している。



## 石川県工業試験場

### 概要

当試験場は県の産業振興に向けて、中小企業等に対して様々な支援を行っている。その一環として、加賀藩以来の歴史と文化を維持すべく、伝統的な工芸や食品技術の発展継承に注力してきた。石川県の有する伝統的な発酵技術の革新と地域資源を活用し、産学官が連携することで、米を原料としたヨーグルト風味の乳酸発酵飲料と花酵母を用いた新清酒の開発に成功した。



### 評価された点

- ・基礎研究だけでなく商品開発にも大いに貢献し、地元の稼ぐ力の原動力を作り出している。
- ・伝統的発酵技術を駆使した新商品の開発は、他県でも取り組める好事例。
- ・伝統発酵食品の「鱈のなれ寿し」由来の免疫力向上が期待される乳酸菌を用いて「お米を原料としたヨーグルト風味乳酸発酵飲料」を開発した点や、兼六園の八重桜から清酒用酵母を分離し、県開発酒米「石川門」、白山の「伏流水」を使用してオール石川の酒造りを実現させた点等、産学官または産官連携でヒット商品を産み出す独自性のある取り組みは高く評価できる。
- ・伝統食から生みだされた新たな発酵食品であること。

